

## 留学体験記

人間関係学部人間文化学科

日本語日本文学コース4年

1501145 永盛 鈴那

日本語教員副専攻課程の講義を受講するなかで、日本語教育について関心を持ち、日本語インターン留学の制度があることを知りました。日本語教育に関心を持ったのは3年生の後期で、どんな職業になりたいか、どんな企業に就きたいかなど将来について考えることが多い時期でした。選択肢のひとつに日本語教師が思い浮かびました。自身が日本語教師に向いているかどうか試したいと思ったのが留学のきっかけでした。

平日 9:00~17:30 がオフィスアワーの時間として決められており、その中で 75 分×2 コマの授業を週に 2 回行いました。連続する 2 コマは同じ教案を使い、教える学生が変わるという流れです。授業外の時間は、指導担当教員(常任の日本人講師)の指示に従って授業準備を行いました。土日や祝祭日(マカオの暦に従う)が休日で、買い物に行ったり、学生と交流したりしました。マカオには世界遺産も多く、観光地がたくさんあるので、散歩をするだけでも楽しかったです。長期休暇中は、一時帰国したり、香港や珠海(中国本土)に行ったりしました。光影節(イルミネーション)や花火大会など、国が開催するイベントも多いので娯楽にかかる費用を抑えながらも充分楽しむことができました。他大学から来ている日本人留学生とも交流もあるので、国内外の知り合いが増えました。

今まで実家で生活していたため、自分のことをすべて自分で管理するということがありませんでしたが、仕事や生活の管理を自分で行わなければならないことにより、責任感と自己管理能力を高めることができましたと思います。また、実際の日本語教育の現場に携わることで、日本語教師のやりがいや大変さを身をもって感じることができました。貴重な経験をするためには自分から挑戦することも大事だと思いました。改めて自分を見直す機会にもなりました。マカオでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、今後の生活に生かしていきたいです。

